

8月13日

テーマ：悲しむ者は幸いです

聖書箇所：マタイの福音書 5章4節

◆今日のみことば

悲しむ者は幸いです。その人たちは慰められるから。

マタイの福音書 5章4節

◆メッセージ

悲しんでいる人を見て、幸せそうに見えますか？普通は、かわいそうに思います。「悲しい」というのは、心が切り裂かれて、痛んでいることを言います。心が痛くて、涙がいっぱい。だれだってそんな思いはしたくないし、悲しい気持ちがあればできるだけ早く悲しみがなくなって、明るく楽しい気持ちになりたいと思います。

でも、イエスさまは言うのです。「悲しむ者は幸いです」と。不思議ですね。どうして「悲しむ人」が、幸いなのでしょうか？それは、何でも悲しんでいれば幸せになれるということではありません。自分の「罪」を悲しむ人が幸いなのです。自分には罪があることを正直に認めて、罪があることは苦しいこと、罪を持ったままでは幸せにはなれないことを知るのです。そして、「罪なんかなければ良いのに！」と、自分の罪に心からがっかりすることです。



そうやって罪を悲しんでいる人を、神さまが慰めてくれます。「慰めてくれる」ということは、神さまが私たちのすぐそばにいてくれて、私たちに必要な助けをくださるということです。聖書は、次のように約束しています。「もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます」

(Iヨハネ1:9)。神さまは、罪を嫌って悲しむ人の味方になってくれます。神さまを信じ受けいれて、神さまが、味方になってくれる幸せを味わいましょう。

◆お祈り

「私の中には罪があります。その罪を捨てます。神さまが、私の罪を赦し、私の味方になってお守りください。」 (和泉福音教会牧師 青木義紀)